

**製品名: MBD1 (3J6) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe13680**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	67kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MBD1
別名	CXXC 3; Mbd1; MECP1 COMPLEX; PCM1; RFT;
遺伝子 ID	4152.0
SwissProt ID	Q9UIS9
免疫原	ヒト MBD1 の合成ペプチド

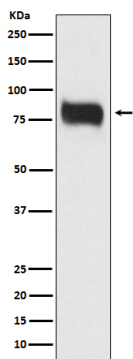
**背景**

プロモーター内の CpG アイランドに結合する転写抑制因子であり、DNA は CpG ジヌクレオチド内のシトシン 5 位でメチル化されている。メチルメタンスルホン酸 (MMS) による DNA 損傷によって生成される 7-mG の存在により、結合は消失する。プロモーター内の CpG アイランドに結合する転写抑制因子であり、DNA は CpG ジヌクレオチド内のシトシン 5 位でメチル化されている。メチルメタンスルホン酸 (MMS) による DNA 損傷によって生成される 7-mG の存在により、結合は消失する。転写抑制因子として作用し、ATF7IP をリクルートすることで遺伝子サイレンシングに関与し、ATF7IP はヒストンメチルトランスフェラーゼ SETDB1 などの因子をリクルートする。おそらく、SETDB1 および ATF7IP と複合体を形成し、転写を抑制し、DNA メチル化とヒストン「Lys-9」トリメチル化を結び付ける。アイソフォーム 1 とアイソフォーム 2 は、メチル化されていないプロモーターからの転写も抑制できません。

## 研究分野

-

## 画像データ



HeLa 細胞溶解物中の MBD1 発現のウェスタン プロット分析。